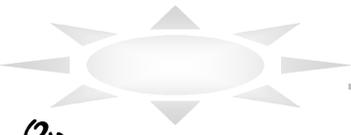


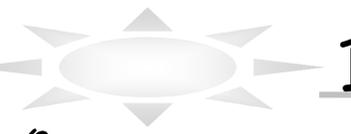
ひろがるリサイクルの輪



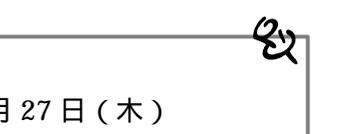

10 MELON
 日時：2003年11月23日(日)
 場所：勾当台公園市民ひろば
 共催：MELON ごみ減量プロジェクト
 協同組合日専連仙台

当日の気温は低かったものの好天に恵まれ約8,000人の来場者で賑わいました。今年は、一般出店100ブースに加え、企業会員の株式会社伸電、株式会社サイコーの展示ブースや、朝市・夕市ネットワークの協力による乾燥生ごみと野菜の交換ブースを設けました。

また不要になった衣類を集めて販売する「古布(こふ)の山」コーナーでは、昨年の1.5倍にあたる77,134円の売り上げがありました。朝市夕市ネットワークで用意していただいた豚汁は無料で配布し、皆さんからカンパ12,989円をいただきました。あわせて95,723円の収益金で、4月に10周年記念植樹を行います。場所は昨年も植樹を行った、台原森林公園を予定しております。


食の安全——次世代へどう引き継ぐ？

日時：2003年11月27日(木)
 場所：JAビル宮城11F大会議室
 参加者：120名
 基調講演：伝統食から見える
 食の安全・安心
 講師：宮本智恵子氏
 主催：緑・食部会

「米と野菜と魚と大豆とワカメ」といった基本的な食材をうまく使って、日本型食生活を子どもに伝えていくことが大事、次の世代に食の安全をどのように引き継いでいくか、取り組みを強めていかなければならない」と強調されました。

パネルディスカッションでは、宮本氏とNPO法人「グループゆう」代表の中村祥子氏、「食品の安全行政をすすめる懇談会」代表の人間田範子氏、仙台市立柳生中学校栄養士の氏家幸子氏、MELON理事の河相一成氏の4人が討論。高齢者への配食サービスや学校給食を通じた食の安全、安心の取り組みの報告や、食品行政に対して、消費者側に立ったより厳しい要望が出されました。

河相氏は、「食の安全・安心の対極には、企業、農協、生協等のモラルとともに食害、偽装表示に対する行政の対応の如何にかかっています。今回の経験をもとに食の安全について県全体を覆うようなネットワ

基調講演では、80歳を超えてなお食の運動を勧めている宮本氏の伝統食の取り組みを聴きました。主宰している伝統食の会のスローガンは「自国の食文化の継承、新しい食文化の創造」なので、11年前から各地の伝統食を巡る「伝統食列車」を毎年企画したり、例えば大豆のように、素材そのものを文化にしていく日本の伝統食の特質を話されました。

ークができればいいですね。食の運動はおいしい運動だから、楽しい活動にしていきたいと思います」と結ばれました。

(緑・食部会 庄子都)
